

リアルタイム PCR 法を用いた浴槽水等のレジオネラ属菌迅速検査法の開発

保健科学課 松永 典久・高橋 直人・古賀 舞香・丸山 浩幸

日本防菌防黴学会 第 44 回年次大会

福岡市では培養法でのレジオネラ属菌検査を行っており、結果判明までに 7 日以上を要するため、迅速な陰性確認の検査法が求められている。そこで、レジオネラ属菌陰性確認のための迅速で安価な検査法として改良したリアルタイム PCR（以下「qPCR」）法を用いた迅速検査法の開発を行った。

培養法は検水 500mL をろ過濃縮および酸処理を行い MWY 培地に塗抹し 36℃、7 日間培養した。

遺伝子抽出法は「低速遠心+熱抽出法」を採用した。

qPCR 法はろ過濃縮液または酸処理液から遺伝子を抽出し測定を行った。

行政検収の浴槽水等 67 検体から「低速遠心+熱抽出法」で遺伝子を抽出し qPCR を行った結果、培養法陽性検体は qPCR 法で 100%陽性となり、培養法陰性検体に対して qPCR 法陰性は 62.0%で、この差は死菌等由来の遺伝子を qPCR で検出したためと思われる。しかし、qPCR 法で陰性となった検体は培養法ですべて陰性であったことから施設の使用再開のための陰性確認用の検査として本 qPCR 法が使用可能であると考えられた。